

マジック国際大会V



愛知教育大（刈谷市）の事務職員向井健人さん（27）＝刈谷市井ヶ谷町＝が、ベトナムで今年4月にあったマジックの国際大会で優勝した。「素直にうれしい。次は世界最大級の大会で3位以内に入賞したい」とさらなる向上心を燃やす。（神谷慶）

刈谷の愛教大職員 向井さんペア

名古屋出身。「他の人と違うことができるようにしたい」と、関西大奇術研究部に入ったのがマジックを始めたきっかけだ。「普通なら知り得ない種を学ぶたびに発見があり、お客さんが驚いてくれるのもうれしかった」。就職後も国内外の大会に出場し続け、昨年五月にイタリアであった欧州最大級の国際大会では優勝した。大会には大きく分けて二種類ある。テーブル上で技を見せる「クローズアップ

マジック」と舞台で披露する「マジックショー」という二つの部門がある。向井さんはマジックショーが得意。二年ほど前から、江戸時代以降続く日本伝統の奇術「和妻」を独学で勉強。大学の部活の後輩、平野志歩さん（二〇）とペアで扇子や和傘を消したり色を変えたり、扇子を花びらに変えたりと和妻をアレンジした演技を披露するようになった。

優勝した「Magic Fest（マジック・フェスト）」はベトナム国内初の国際大会で、ホーチミン市で開催。アジア各国から二十五組が出演した。和服姿の二人は、二人羽織のような体勢から四本の手で扇子や和傘を操る得意技も披露して高い評価を得た。

向井さんは「一位の発表前に客席から『ジャパン！ジャパン！』とコールが起き、温かく受け入れてもらえたことがうれしかった」と振り返る。次の目標は二〇二二年にカナダである世界最大級の大会「FISM（フィズム）」。「過去一回の出場時は入賞できず、不可能に見える技をもっと思いついて、より不思議と感心させられる演技を身につけたい」と意欲を語る。

伝統奇術アレンジした舞台 評価

国際大会の優勝トロフィーや賞状などを手にする向井さん（左）とペアの平野さん（右）

十八、十九両日に開かれる愛教大の大学祭では、関西大奇術研究部OBによる出し物があり、向井さんもテーブルマジックを披露する。観覧料二百円。ショーや教室の依頼は向井さんのメール＝kmukai2@gmail.com＝へ。